

ダンス花

2nd
Stage

アフタース

2015

若手ダンス芸術家を応援する
セッションハウスの新プログラム!「分析の視点」=「批評」を組み込んだ、
未来を見据えるプロジェクト。
'15年9月に続くセカンドステージ!ダンス
公演Part
I

2016.1.23 [sat.] 19:00

ザ・ボーナストラック(香取依里、田村悟、中村駿、仁科幸)

キニナルキ(大前裕太郎、椎野純)

仙田麻菜

チャムグループ(跡部舞、大迫菜緒、高城彩、高橋美砂、堀崎翼)

アフタートーク
ダンサー会議プチ

レビュアー:

中野優子(東京大学大学院)、伊藤茉野(大阪体育大学)、

木場裕紀(東京大学大学院)

ダンス
公演Part
II

2016.1.24 [sun.] 18:00

小暮香帆

高橋和誠

中村蓉

アフタートーク
ダンサー会議プチ

レビュアー:

中野優子(東京大学大学院)、伊藤茉野(大阪体育大学)、

木場裕紀(東京大学大学院)

会場:神楽坂セッションハウス チケット:当日 ¥2,800/前売 ¥2,600

ダンス花 アドバンス

は、セッションハウス若手支援プロジェクトの最高峰プログラムです。
『セッションハウス・アワードダンス花』^(*)の次のステップとして、以下を目標に掲げています。

海外での上演を見越した作品育成

現在は、海外フェスティバルに作品を持ち込むという形式が増えており、そこで求められるのは約15～20分の作品です。セッションハウスでは、アジアの小劇場との交流の一環として、ダンサーを相互にフェスティバルへ招聘する機会が増えています。『ダンス花アドバンス』は、それらへ派遣できる才能を育む若手支援プロジェクトです。

すべての作品への批評性の確保

今日コンテンポラリーダンスの公演は多数行われていますが、具体的に作品を分析され、明文化した批評を受ける機会はほとんどありません。『ダンス花アドバンス』では、創作過程から監修者による評価まで、すべての参加作品が若手研究者3名によるリサーチの対象となります。作る側と観る側、双方の専門家の協働を通じて、作品の強度を高めることを目指します。

2度の上演による作品の精緻化

『ダンス花アドバンス』では、【公演(ファースト・ステージ)】→【ダンサー会議】→【公演(セカンド・ステージ)】の流れにより、批評家や観客から得た建設的なフィードバックを即反映させる事ができる次の公の機会が、約4ヶ月後に用意されます。これにより、約半年間集中してひとつの作品に取り組み、完成度を高めていく事が可能となります。

(*)『セッションハウス・アワードダンス花』……毎年2回各5組、総勢10組による選抜ダンス公演プログラム。3名の審査員が選出するその年の最優秀作品に「セッションベスト賞」が授与され、受賞作品は、プロフィールや受賞理由とともにセッションハウスのウェブサイト上に掲載される。

●作品の選出基準

下記5つの基準を元に、セッションハウスのプログラム全体から『ダンス花アドバンス』出演者を選出します。

1. 獨創性
2. 客観性
3. 社会性
4. 空間構成
5. ダンステクニック、または独自の身体性

●監修

伊藤直子 (振付家、セッションハウス・ダンスプログラム・ディレクター)
近藤良平 (振付家・ダンサー)
松本大樹 (振付家・ダンサー)
中野優子 (東京大学大学院)
伊藤茉野 (大阪体育大学)
木場裕紀 (東京大学大学院)

主催 | セッションハウス企画室

共催 | (株)セッションハウス

助成 | アーツカウンシル東京(公益財団法人東京都歴史文化財団)、セッションハウス基金 ARTS COUNCIL TOKYO

スタッフ | 照明:石関美穂 / 音響:相川貴 / 舞台監督:香取依里 / 記録映像:たきしまひろよし / 記録写真:伊藤孝 / 宣伝美術:亀井佑子

制作 | セッションハウス企画室(伊藤孝、鍋島峻介)

監修 | 伊藤直子、近藤良平、松本大樹、中野優子、伊藤茉野、木場裕紀

【関連企画】

セッションハウス・アワード
ダンス花
2016
vol.24

『セッションハウス・アワードダンス花 vol.24』

2016年1月9日(土)16時 / 19時 (2回公演)

会場:神楽坂セッションハウス チケット:当日¥2800 / 前売り¥2600

出演:五十嵐結也、ザ・プレミアム・ワルツ(酒井直之、橋本迅矢)、ibis、カンカQ、松本武士

S H Session House Foundation

若手ダンサーを海外に送る支援「セッションハウス基金」始まりました。

若手ダンサーへの支援の一つとして、「ダンス花シリーズ」参加者の中から海外フェスティバル等に招聘されたダンサー、振付家の渡航費に充当させていただきます。

《チケットのご予約はこちらまで》

✉ yoyaku@session-house.net ☎ 03-3266-0461

Tickets: 当日 ¥2,800 / 前売 ¥2,600

主催・お問い合わせ

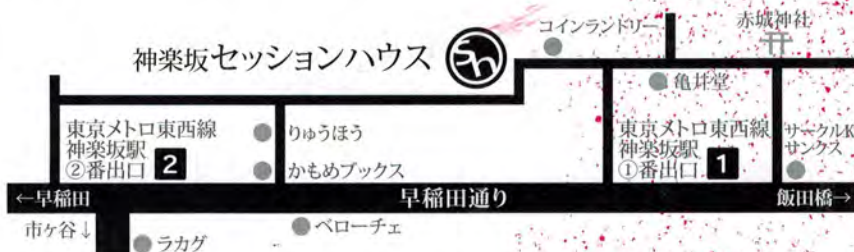
セッションハウス企画室

☎ 03-3266-0461

✉ mail@session-house.net

〒162-0805 東京都新宿区矢来町158

www.session-house.net



コンテンポラリーダンサーたちが一番の魅力と感じているのは「自由」と「多様性」。この個としての要素一人ひとりが凝らす工夫、そこがコンテンポラリーダンスの見どころです！体一つで創る時空間をより極

『ダンス花アドバンス』の
3つのステップ

1 公演
ファースト
ステージ

セッションハウスで行なわれた公演の中から選出した
勢いのある若手ダンサーたちが、海外フェスティバル
等で必要な20分作品に挑戦します。

2 ダンサー
会議

若手研究者3名がリーダーとなり、出演者及び
観客を交えたディスカッションを行ないます。

セカンド・ステージ

Part I

2016.1.23 [sat.] 19:00



アフタートーク

ダンサー会議プチ



ザ・ボーナストラック

『楽園』

振付・演出：ザ・ボーナストラック

(歌川翔太、香取依里、中村駿、仁科幸)

出演：香取依里、田村悟、中村駿、仁科幸

不自由である。と、そう感じる時、その状態を普通と
感じるか、異常とを感じるかは個人の価値観によると
思う。規制は不自由であるのか、不自由は足枷となる
のか。その中で幸福を感じることはできないだろうか。

PROFILE:

ザ・ボーナストラック

大学在学中、セッションハウスの企画であるUDC (University
Dance Cross) で出会い 結成。2014年NEXTREAM21 in
RIKKOUKAIに出場し、グループ部門にて優秀賞を受賞。
香取依里・仁科幸はお茶の水女子大学舞踊教育学コース
卒業。歌川翔太・中村駿は大東文化大学卒業。今回は歌川に
代わり、同じく大東文化大学の田村悟が出演する。



チャムグループ

『瞬き』

振付・出演：跡部舞、大迫菜緒、高城彩、
高橋美砂、堀崎翼

大切なのはいつだって、
センチメンタルな青空と、
外と中のコントラストと、
淡々と燃ゆる紅色した唇。

PROFILE:

チャムグループ(発達心理学における思春期女子に見られる
仲間形成)の異質な行動の根底にあるものを追いきる
女性5人のダンスグループ。2012年9月結成。
主宰：高橋美砂(東京女子体育大学卒)
活動：セッションハウスでの作品発表が中心。教員、公務員、
学生、芸人と…それぞれの生活とダンスを両立していく。



キニナルキ

『うぶごえ』

振付・出演：キニナルキ(大前裕太郎・椎野純)

それは衝撃
それは予感

あの日、あの時、あの頃の、
めぐるしい程の「今」が私に訪れる

それは
あなたとつくる これから

それは
まぎれもない孤独と出会う瞬間

PROFILE:

2012年結成。作品の根底には、いつも日常に潜むドラマ・
劇的なものへの思いがある。デュオ作品「微々たる一步」
「みちくさ」「蝸牛」、2015年には新作「ここに、傍らに」を発表。
群舞の創作にも力を入れ、一時間作品の自主公演を仙台・
東京・静岡などで年に一度上演。今年3回目を迎えた。子育て
や教育現場へのワークショップ活動などにも取り組み、出会い
を産み、生き様を切り取るダンスに向き合っている。



仙田麻菜

『アンカー』

振付・出演：仙田麻菜

無くなるものと、続くこと。
こうして世界に存在する、こと。

PROFILE:

幼少より和田朝子に師事。早稲田大学在学中よりコンテン
ポラリーダンスにのめり込む。これまでに平山素子、山田勇気、
浅井信好らの作品に出演。近年ではソロ活動にも精力的に
取り組み、国内外で作品を発表。主な作品に『絶対的脱皮』、
『ドキュメント』など。『2014ソウル国際振付フェスティバル
(ソロ部門)』出場。



小暮香帆

『AQUA ZONE』

振付・出演：小暮香帆

あなたとわたしをつなぐのは あの空間

PROFILE:

1989年生まれ。6歳よりモダンバレエを始める。これまで
笠井韻をはじめ多数振付家作品に出演、ダンサーとして
イタリア、インドネシア、メキシコツアーに参加。2012年よ
ソロ活動を開始、舞台のみならず映画や映像作品、LIVE
出演。2012年日本女子体育大学舞踊学専攻卒。第2回
セッションベスト賞受賞。横浜ダンスコレクションEX2015
奨励賞受賞。めぐりめぐるものを大切に踊っている。

<http://kogurekaho.com>



photo:BOZZO

中村蓉

『Time falling down』

振付・出演：中村蓉、他

落ちていく時間の中で、わたしの想いはそのまま

PROFILE:

中村蓉 (Yo Nakamura)

早稲田大学卒。2009年より小野寺修二・近藤良平・室伏
の振付作品に出演、アシスタントを務める。自身の作品は
セッションハウス、横浜ダンスコレクションなどで受賞、国内
で上演し幅広く活動している。二期会オペラ『ジュリオ・
チェザレ』や演劇の振付も担当。ワークショップ「歌謡曲
スイッチ」を各地で展開している。ダンスフェスティバル
DanceDanceDance横浜PR映像に振付・出演し好評を得る

<http://yo-nnn.wix.com/yo-nakamura>

ダンス”という共通の表現として認知されるために、
てのセカンドステージ、新世界をお見せします。

3 公演
セカンド
ステージ

様々なフィードバックを糧に検討を重ねて
ステップアップ、もう一度作品を上演します。

ダンス花

2nd
Stage

アドバンス

2015



アフタートーク
ダンサー会議プチ



高橋和誠

『あはひ』
振付・出演:高橋和誠

あはひ(あわい)とは、間(ま)のことを指す。
身体と光と音楽の相互関係。
そこから生まれる「余白」を追求する作品。

PROFILE:
1989年1月26日生まれ。青森県八戸市出身。ダンスのルーツは
幼少期の民舞にあり、大学進学と同時にヒップホップ
カルチャーに傾倒。横浜ダンスコレクションEX2012最優秀
新人賞をきっかけに振付家活動を始める。ストリートダンス
をベースに、身体・光・音楽の三位一体の空間構築を信条と
している。

about.me/kazumasatakahashi



豊福彬文(んまっ-ポス)

※都合によりファーストステージのみの出演となりました。

地方(宮崎)を拠点に活動することで、いわき市の
アウトリーチやお茶の水附属小・中学校でのワーク
ショップ等においても、「距離」感はプラスに働きます。

しかし今回の一月の公演は、この「距離」を理由に
諦めないといけなくなりました。

僕たちは、この「距離」をプラスにしてきましたが、
時には、今回のようにそうしたくてもできないことも
ありました。

今回は参加できないのですが、9月末での公演 &
ダンサー会議を受けて、しゃべる機会もいただき、
地方でやることもおもしろいことだと再認しました。

あれから数ヶ月間、少し力を入れて取り組んでおり、
新しいプロジェクトを企画・計画しています。

アフタートーク ダンサー会議プチ

ダンサー会議ではコンテンポラリーダンスの創作にまつわるエトセトラが、ダンサーの
実際の創作コンセプトや、将来のビジョン・集客の仕方、作品上演に関する社会的なしくみ、
という様々な観点から、多面的に話し合われ共有されました。

まず最初にコンテンポラリーダンスとはどんなダンス?というそもそもの問いにみんなで
挑み、「コンテンポラリーダンスとは多様な価値観があり、流動的で、自分の世界に対する
見方、イメージや身体感覚を大切に、従来のダンスの形式とは異なるかたちに
捉われずに自由に表現するダンス」というコトバを全員でつむぎました。

ここでのポイントは、創作をしていく主体であるダンサーたちがコンテンポラリーダンスに
自由さ、多様性を感じ、それを積極的に保つべく様々な工夫をして創作しているとい
うことです。

実際の作品でもコンセプトを具現化するために、ダンサーはその確固たる身体で時空間を
自由に歩き来し、テーマをいろいろな観点から多角的に捉え直し、表現するといった様々な
挑戦・アプローチを行っており、またそれを自分自身の言葉をもって語る事ができる
というところに非常に勢いを感じました。

作品上演に加えて、ダンサー会議という言葉での作品創作過程の共有というスパイスを
へて、ダンサーのみんながどのように自分の作品をふりかえり、どのように自分、他者、
セッションハウス、ひいては社会のなかに自身の作品を意味付けていくのでしょうか。
そこに無限の可能性と選択肢が秘められています。

さて次のみんなの選択は??
何を選びとって、どのように表現し、発展させていくのでしょうか?

そして、文献でもデータでもなくリアルな創造の現場にダンサー会議を通して立ち会った
研究者はどのような研究のインスピレーションを得たのでしょうか?

続きはアフタートーク「ダンサー会議プチ」で。

(中野優子)

●レビュアー:



中野優子 (東京大学大学院)

PROFILE:
東京大学大学院学際情報府博士課程在学中。研究テーマは「コンテンポラリーダンスにおける
創作プロセス」で、ダンサーを対象としたインタビューやフィールドワーク、実験など様々な手法
を組み合わせた探索的かつ実証的、学際的な研究を行っている。国内外の学会での発表
の他、実践活動として民族舞踊を取り入れた独自の作品を創作している。



伊藤菜野 (大阪体育大学)

PROFILE:
大阪体育大学体育学部スポーツ教育学科体育科教育コース助教。筑波大学大学院博士後期
課程に在籍し、「他者との関わり」をテーマに学校体育におけるダンス指導法を研究している。
2007年より modaモザール・シネマの国内外公演にダンサーとして参加する傍ら、セッションハウスの
企画・制作に携わる。



木場裕紀 (東京大学大学院)

PROFILE:
中学からジャズダンスを始める。大学院入学を期にダンス教育の研究を始める。2013年、文化庁
新進芸術家海外派遣研修員としてアメリカ・マディソンへ留学。ダンス活動と同時に舞踊教育の
歴史研究や舞踊を取り巻く文化政策の研究に取り組む。フランス、アメリカ(ハワイ)、シンガポール
での国際学会発表、マレーシアの国際ダンスフェスティバルでのソロ作品発表など国内外で
活動の場を広げる。昨年9月に留学先のマディソンで単独公演「Foliage Multimedia Concert」
を開催。映像作品上映を交えた複合型ダンス公演を行い好評を博した。現在MACOBA Dance
Companyの共同代表として、ダンス文化の普及を目指し精力的な活動を行っている。